

スコーレ・マスターズ通信

第83号
平成31年3月28日

スコーレ・マスターズ東海地区 人生学講座開催

2月17日(日)岐阜市市橋コミュニティセンターにて、小川教育局長を迎え、出席者24名によりスコーレ・マスターズ人生学講座を開催しました。



テーマは『夫婦円満は家庭の基礎～良い夫婦関係を持続させるには～』。KJ法(注1)によるグループディスカッション形式で進行しました。参加者を4グループに分け、まず各個人でカード(付箋紙)にテーマに沿って意見をできる限り書き出します(1枚のカードに1つの意見)。その後、出されたカードに基づきグループ討論を行い、各グループリーダーが発表していきます。参加者は男女の人数が半々といったところで、夫婦で参加していただいた方が6組ありました。KJ法の特徴は、グループ討論から始まるのではない為、短時間でとても多くの意見(情報)が引き出されるところにあります。グループ別に模造紙に張り付けられた全てのカード(約210枚)を皆さんとても熱心に見ていました。もちろん中には共通する意見も多くありますが、様々な家庭事情があるように色々な意見

見がありました。主な意見として、①コミュニケーション(挨拶・会話・スキンシップ・旅行・共通の趣味) ②思いやり(感謝・家事分担・労いの言葉・プレゼント) ③子供の教育④義父母、互いの親族との関係 ⑤プライバシーの尊重(財布、携帯電話を覗かない)等々。これらの意見を少ない時間でまとめて発表されたグループリーダーの方々は大変だったと思います。

小川教育局長の講話では“夫婦円満の秘訣”として、①相手を褒める(10個並べて伝える)②適度な距離を保つ。局長の話は、分かりやすく、ユーモアたっぷり共感しつつ楽しく聞かせていただきました。

今回、初めてスコーレ・マスターズ人生学講座に参加させていただきました。短い時間でしたが、貴重な体験が出来て楽しかったです。次回も是非参加したいと思います。(田中 義信)



注1:KJ法とは、蓄積された情報から必要なものを取り出し、関連するものをつなぎ合わせて整理し、統合する手法。考案者の川喜多二郎氏のイニシャルよりKJ法という。

マスターズルーム新設 4月よりスタート

この度、スコーレ協会本部4階にマスターズルーム(事務室)を設置しました。今後のマスターズ活動を積極的に推進していく為に、スコーレ協会本部の多大な支援・協力を直に受けるべくスコーレ本部内に常時活動出来る拠点を創設しました。

今後は、このマスターズルームを活動の企画・運営の中心拠点として種々活用していきます。具体的には、現在代表幹事の今野洋一が、週のうち何



日か在席して作業をしながらマスターズ会員の皆様の受付窓口業務担当として対応致します。

マスターズへの要望や疑問・提案などございましたら何時でもご連絡下さい。事前にご連絡いただ

ければ、マスターズルームでお待ちしております。

更に本年4月以降は、毎月1回(第3土曜日予定)14時から16時でミニ学習会を開催します。日常の話題や時事テーマ等、会員の皆様が他の会員さんからご意見を聞きたいと思う事など、なんでも自由に意見交換出来る場として、ご参加いただける会にしようと考えています。

また、ご要望に応じて男性だけでスコーレ学習を行う場にしたいとも思っています。

学習会からセミナー、セミナーから人生学講座へと学びの場を発展・拡大していき、マスターズ会員全員がこれからの人生100年時代を生きる為の生涯学習を続ける場所と手段を、ご提供出来ればと思っ活動を進めてまいります。

今後もこれまで通りにご愛顧いただき、引き続きマスターズ活動へご支援賜りたく宜しくお願い申し上げます。(今野 洋一)

スコール・マスターズ人生学研修 (2018.11.10) 永池会長の『一問一答』



昨年11月の首都圏マスターズ「人生学講座」において、永池会長講話の後に「質疑応答」の機会を設けました。その質疑応答の内容の一部をご紹介します。質疑応答の内容は、マスターズ会員にとって大いに参考になる事例が含まれており、紙面を借りて会員の皆様と共有したいと考えております。

中学3年生の娘への対応について

【Q】中学3年生の娘の相談です。娘は来年高校受験を控えており、家で、塾でと日々受験勉強に専念しております。私にも「勉強を教えて、この高校に行きたいのだけど大丈夫かな」と積極的に相談してきます。頑張っている娘ですが、学校、塾の面談に参加している妻に聞いたところでは、現時点においては志望校には程遠いレベルで、えり好みしなければやっと高校に入れるレベルとのことです。私は「まだ、時間があるから大丈夫、絶対大丈夫」などと声掛けをして、否定的なことは一切言っていない状況ですが、将来の娘のことを考えると時には鬼になり、なんとしても合格させる様スパルタ方式で対応した方が良いのかなとも思っております。

実際私も両親には「勉強しろ、勉強しろ」の一点張り、相当のストレスを感じておりましたが、今思うと高校、大学と進学、就職し今の自分があり、その時の親なりの息子を思っただけの愛情表現かなとも思っております。今後受験生の娘に対して、父親として、男としてどの様に対応していけば良いかご指導を頂ければ幸いです。

【A】(会長)：母親と娘さんとの関係はどうなのですか。(質問者)：なんでも言い合って良い関係だと思っています。

(会長)：それならいいです。父親はその事に関しては何も言わないで、母親から今の現実を子どもに伝えるといいです。「このままだったら高校は厳しいよ」と。

何事も普段子どもと母親とやり合っているのならその中に今の件を入れていくと良いです。母親が言えば良いです。母親が言った方がショックが少ない。父親の出番はずっと後です。この様な場合で、もし父親ができれば、あなたから見た子どもの長所、学校で何の学科が得意なのか、それから学科だけでなく、親の目から見て子どものここは感心だなと思うこと、これをさりげなく言って

あげればいいです。この様な子どもとの関係というのは結果を急がない。要は、親はあなたを信頼しているのだというメッセージを常に出すことです。それには評価している部分を具体的に、親から見てこういうところが良いと思うことをさりげなく、伝えていくといいです。

「スパルタ方式で対応したほうが良いのか」の質問ですが、スパルタ方式というのは昔の教育方式です。今はその様なことをしては駄目、ご夫婦でよく話し合っ、お父さんとお母さんの言うことが違わないように誉めていく。それが必要です。続けてください。

離れて住む両親について

【Q】父は80歳、母は79歳で九州地区に住んでいます。今は両親ともに元気ですが、数年後に何が起きてもおかしくない年齢になってきております。今までは帰省した時に、今後の事について話をしたことはありません。また、両親からも話をしてきたことはありません。

お正月に帰省した時にでも今後の事を両親に相談しようと思っておりますが、どのような事に気をつけたら良いでしょうか。

兄妹は4歳下に妹(同九州地区在住の4人家族)、8歳下に弟(関西在住の4人家族)です。

私は長男ですが、実家に帰る事は考えておりません。

【A】帰省した時にまず両親がどう考えているか、まずは意向を聞いてみたらいかがでしょうか。それもさりげなくです。どういう考え方なのか。お父さんお母さんで考え方が違うかもしれませんし一緒の場合もあるかもしれません。まずは両親がどのように考えているかを聞き出すことが大事ではないでしょうか。それを受けて自分が何ができるのか。

できる事とできない事がありますから。東京で仕事をしていたら九州には帰れないでしょうから、まずは両親の気持ちを聞いてみてください。その上でまた相談をしてください。



勤務態度の悪い社員について

【Q】会社に、仕事は優秀だが、上司に対しての態度や基本的な挨拶をせず、会議などでも雰囲気悪くする態度や言動をする社員がいます。私は、その者の上司にそのことを注意して欲しいと伝えましたが、上司はそのことは認識しているものの、軋轢を避け、我慢するしかない、腫物には触れずに上手く使うしかない等の回答でした。私は、上司は部下を指導することも職責と感じているし、他の社員の働きやすい環境を作ることも上司の職責と感じています。組織全体が円滑に回っていく為には、嫌なことも逃げずに正していく、改善していく努力が必要と感じます。会長はこのような状況に際した場合、上席者がとるべき対応をどのように考えられるでしょうか。

【A】基本的には質問者の言われた通りで、上席者は組織全体を良い方向へ導いていく職責も担っている。しかし、問題の当事者に遠慮をしたり、注意をすることでトラブルとなることを避けようとする者は、たとえ上席者であっても多いものです。

その組織の規模にもよりますが人事の権限をもつ組織のトップはそのようなことをどう考えるか、それによって、問題の社員が目に見えるような態度や行動であれば、そのことを、勇気を持ってトップに伝えるか否か、判断することです。ただ、問題の社員を非難している自分の勤務態度、仕事への取り組み方についてはどうなのか、ということは今一度見直す必要はあるのではないのでしょうか。

50歳代の人生目標について

【Q】現在、私は52歳です。8年前に不当に逮捕されました。冤罪となりましたが、職場においては理不尽な処遇を受け、8年経った現在にいたるまで昇格しておりません。この間、永池会長のご著書を熟読し、マスターズ研修で学んだ結果、職場の組織から見放された時に、一番問われてくるのが人間性であり、自立した生き方ができるように心がけていくことが大切であることに気づきました。

永池会長からご指導いただいた「自分ができることとしては、職場の組織がもっている“資産”を活用して、サラリーマンとして自ら磨き上げること」に尽きると感じています。ここ数年、地域の中間支援組織(NPO法人)での活動に携わりながら、自分自身でワークショップ・ワールドカフェを企画しファシリテーターをしています。廃棄物政策の研究では、ある大学の研究所の客員研究員に属しながら論文執筆、研究発表させていただいております。

自分の強みを生かして日々より磨く努力を怠らないこと、できる限り残業しないようにすること、テレビを見ることを必要最低限にすることなど、自分が活動できる時間をできるだけ多く創り出していくことだと思います。全国各地に足を運びながら、ワークショップ・ワールドカフェを活用して、地域づくりのお手伝いをしていくことが日標です。また、人材(人財)育成という観点から廃棄物政策研究をテーマに大学で教鞭をとれるようになることも目標です。

以上のことについて、今後の私の人生(仕事)について、永池会長からご指導賜れば幸いです。

【A】そこまで考えて目標にしていることはとても良いことですね。是非、目標を目指して頑張ってください。

以前、自分が本来貰えるものが貰えない場合は「天への貯金」と受止めるという話をしました。人の一生はわからないもので、現役時代に報われなくても、現役でなくなってから今度はいろいろ報われる、良い思いをすることも少なくないのです。

大事なことは、その時その場、自分ができる最善の生き方を心掛ける、それが同時に天に貯金する生き方に通じる。そういう気持ちで取り組んでください。



スコーレ・マスターズ人生学研修 永池会長の『一問一答』

今、なぜ父親教育が必要なのか？

【Q】月間すこーれ誌456号「永池会長対談」の記事内容についてご質問させていただきます。

対談記事の最終頁(45頁)において、永池会長が「母親教育も大事なのですが、それと同じくらい父親教育も大事だと私は思っています」と言われています。永池会長が仰る「父親教育」の具体的内容について教えていただけませんかでしょうか。

【A】家庭というのは小さい社会です。社会という機能を十分に生かすには、平和と秩序が必要となってくるわけですが、日本の家庭の場合は、家族に対する責任を父親がもっているのか母親がもっているのか、ここが非常に曖昧です。

現実からみると、実質的に家庭の権力者は母親です。だけれども、権力と同時に権威というものがある。父親は、母親の様に家庭のことを全部掌握するというのは現実的には出来ない。そこで、父親が背負うのは権威なのです。ただし、権威とは威張るということではありません。

母親が、家の中のことについて実権を握ったとしても、家族を結びつけるもの、家族をまとめる精神的なもの、地位だけではなく、やはりもう一つは心というものがなければその家族はかならずしも好ましいとは言えません。そうした精神的なものを父親が担えるかどうかです。いざという時の精神的なものに関しての権威、本当に大事なものを家族に対して、いざという時に提供できるかどうか。父親には、これが問われることになるのかなと言う気がします。



平成31年度マスターズ研修 (心身開発トレーニング主体)

マスターズ研修では、リラクゼーション禅、および、ボイストレーニングをメインとしたトレーニングを実施していますが、平成31年4月から新しいメニューを取り入れることを検討しています。ご期待ください。詳細内容が決まり次第、案内チラシ、マスターズHP等でお知らせいたします。

なお、従来土曜日開催でしたが、日曜日の開催となります。また、ご夫婦でご参加可能ですので、是非一緒にご参加ください。

今後の予定

■ マスターズ研修

心身開発トレーニング

スコーレ会員であればどなたでも無料で参加可

開催日 : 4/7(日), 5/12(日), 6/2(日)

7/7(日), 8/4(日), 9/8(日)*

*) 上期の最終日は特別メニューを検討中

時間 : 10:00~12:15

場所 : スコーレ会館3F大広間

■ ミニ学習会

日常の話題、時事テーマなど、会員間で自由に意見交換出来る場を提供(詳細検討中)

開催日 : 基本毎月1回(第3土曜日を予定)

時間 : 14:00~16:00

場所 : スコーレ会館4Fマスターズルーム

○ マスターズ研修・ミニ学習会について

問い合わせ先 TEL 042-707-4500

mail: info@schole-masters.org

■ 東海地区『人生学講座』 6/ 9(日)

■ おやじ日本『全国大会』 6/23(日)

編集後記 最近、道を歩いている時あるいは朝起きる時に、突然仕事の内容に気づく事があります。何の脈絡も無く、はつきりと頭に浮かんでくるのです。何かの違和感を感じた事が、その時ははつきりしなくても、後になって気付きとして現れてくるのだと、思います。これは心身開発トレーニングの成果だと思っています。月に1回短い時間ですが、確実に効果があることを実感しています。(菊地 啓)

編集 : 公益社団法人 スコーレ家庭教育振興協会
スコーレ・マスターズ 広報委員会

発行人 : 今野洋一

〒252-0206 相模原市中央区淵野辺4-37-17

TEL : 042-707-4500 <http://schole-masters.org>